

2026 年 8 月 21 日

台湾・7月輸出受注、半導体などをけん引役に過去最高額に(Asia Weekly)

～世界的な AI・半導体関連投資の旺盛さが輸出受注を押し上げる展開が続く～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

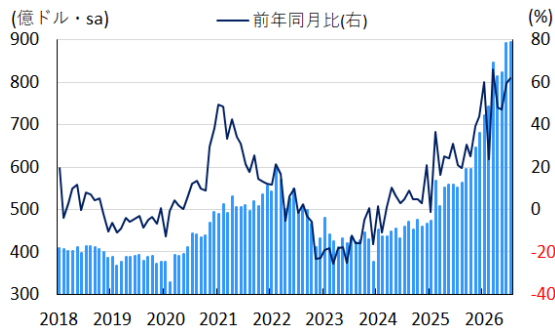
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/17(月)	(シンガポール)7月非石油輸出(前年比)	+24.2%	+26.5%	+24.4%
	(中国)7月小売売上高(前年比)	+0.6%	+1.5%	+1.0%
	7月鉱工業生産(前年比)	+4.5%	+4.8%	+5.3%
	7月固定資産投資(年初来前年比)	▲6.7%	▲6.0%	▲5.7%
	(タイ)4-6月実質 GDP(前年比)	+1.9%	+1.7%	+2.8%
	(マレーシア)7月消費者物価(前年比)	+1.8%	+1.9%	+1.9%
8/19(水)	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	5.75%	5.75%	5.75%
8/20(木)	(オーストラリア)7月失業率(季調済)	4.5%	4.4%	4.4%
	(マレーシア)7月輸出(前年比)	+38.0%	+34.3%	+45.5%
	7月輸入(前年比)	+36.4%	+32.4%	+43.1%
8/21(金)	(台湾)7月輸出受注(前年比)	+61.9%	+54.6%	+49.3%
	(ニュージーランド)7月輸出(億 NZドル)	73.9	--	78.3
	7月輸入(億 NZドル)	93.4	--	80.7

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～世界的なAI・半導体関連投資の旺盛さを追い風に、7月の輸出受注額は過去最高を更新～

20日に発表された7月の輸出受注額は前年同月比+61.9%となり、前月(同+49.3%)から伸びが加速した。前月比も+0.42%と3ヵ月連続で増加したものの、伸びは前月(同+8.31%)から鈍化した。輸出受注額の水準は単月ベースで過去最高を更新した。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の受注が引き続き拡大しているほか、電気機械関連の受注にも底堅さがうかがえる一方、IT関連の受注はわずかに下振れしており、分野ごとにばらつきがみられる。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに拡大の動きに一服感が出ているほか、欧州向けも下振れしているものの、米国向けは引き続き旺盛な動きをみせている。さらに、日本向けやASEANなどアジア新興国向けも堅調に推移しており、世界的なAI(人工知能)・半導体関連需要の旺盛さが受注を後押ししている。

図1 TW 輸出受注の推移

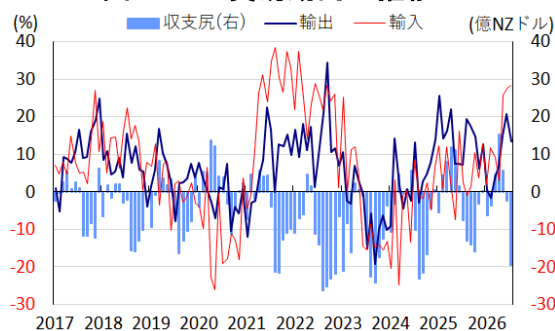


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[ニュージーランド]～原油・石油製品関連の拡大が輸入額を押し上げる一方、輸出額は拡大に一服感～

21日に発表された7月の輸出額は前年同月比+13.5%となり、前月（同+20.8%）から伸びが鈍化した。前月比は▲2.8%と前月（同+3.1%）から5ヵ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの動きに一服感が出ている。財別では、主力の輸出財である乳製品や食肉の輸出が軒並み下振れしたほか、機械製品関連や果物、魚介類などの輸出も減少するなど、幅広い分野で弱含む動きがみられる。国・地域別では、ASEAN向けや欧州向けに底堅い動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国向けが大幅に減少したほか、隣国オーストラリア向けや米国向けも軒並み減少している。一方、輸入額は前年同月比+28.4%となり、前月（同+27.5%）から伸びが加速した。前月比も+2.9%と前月（同▲1.3%）から2ヵ月ぶりの増加に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的には拡大傾向で推移している。財別では、原油・石油製品関連の輸入が拡大しているほか、機械製品関連や縫製品など幅広い分野で輸入の増加がみられる。その結果、貿易収支は▲19.49億NZドルとなり、前月（▲2.37億NZドル）から赤字幅が拡大した。

図2 NZ 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[マレーシア]～生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退し、全般的に物価は落ち着いた動きが続く～

17日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月（同+1.9%）からわずかに伸びが鈍化した。前月比も0.0%と前月（同0.0%）に続いて横ばいとなった。補助金政策の効果でエネルギー価格が抑えられているうえ、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落基調で推移するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.8%となり、前月（同+1.9%）からわずかに伸

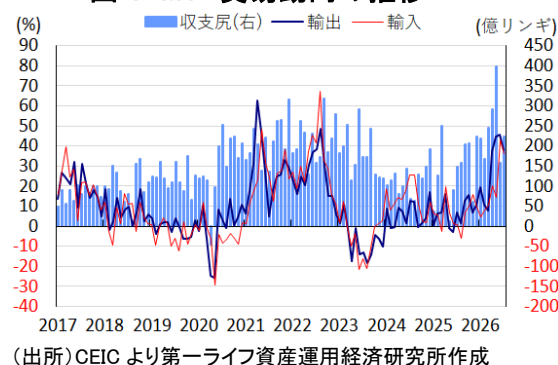
びが鈍化した。前月比も 0.0%と前月（同 0.0%）に続いて横ばいとなった。エネルギー価格の下落を受けて輸送コストに下押し圧力がかかるなか、財価格の上昇圧力が抑えられているほか、サービス物価の上昇も緩やかなものにとどまるなど、全般的に物価は落ち着いた動きをみせている。

20日に発表された7月の輸出額は前年同月比+38.0%となり、前月（同+45.5%）から伸びが鈍化した。前月比は+9.8%と前月（同▲8.8%）から2ヵ月ぶりの増加に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的には拡大傾向で推移している。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品・機械製品関連の輸出が旺盛な動きをみせているほか、化学製品関連にも堅調さがうかがえる一方、価格上昇の一服を受けて原油や天然ガスなどエネルギー資源関連の輸出には下押し圧力がかかっている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEANなど周辺国向けも堅調な動きをみせるとともに、EU向けも底堅く推移する一方、米国向けや中南米向けは下振れしている。一方、輸入額は前年同月比+36.4%となり、前月（同+43.1%）から伸びが鈍化した。ただし、前月比は+0.1%と、伸びは前月（同+17.3%）から大幅に鈍化したものの、2ヵ月連続で増加した。財別では、原油高の一服を受けてエネルギー資源関連の輸入に下押し圧力がかかる一方、機械製品関連や化学製品関連、食料品関連の輸入には底堅い動きがみられる。その結果、貿易収支は+224.60億リンギとなり、前月（+157.78億リンギ）から黒字幅が拡大した。

図3 MY インフレ率の推移



図4 MY 貿易動向の推移

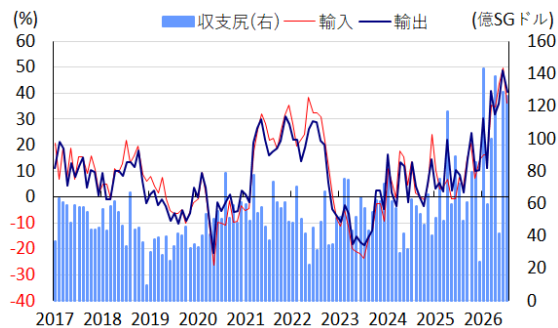


[シンガポール]～半導体など電子部品関連の輸出は引き続き堅調も、全体では持ち直しの動きに一服～

17日に発表された7月の非石油輸出額は前年同月比+24.2%となり、前月（同+24.4%）からわずかに伸びが鈍化した。前月比も▲0.31%と前月（同▲8.82%）から2ヵ月連続で減少しており、持ち直しの動きに一服感が出ている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連や電気機械関連で堅調な動きがみられる一方、医薬品など化学製品関連のほか、金属関連の輸出が力強さを欠くとともに、食料品関連の輸出にも下押し圧力がかかるなど、分野ごとのばらつきが鮮明になっている。原油関連を合わせた総輸出額も前年同月比+40.6%となり、前月（同+48.9%）から伸びが鈍化した。前月比は 0.0%と前月（同+3.4%）から横ばいに転じており、持ち直しの動きに一服感が出ている。一方、輸入額は前年同月比**+36.3%となり、前月（同+49.7%）から伸びが鈍化した。ただし、前月比は+4.4%と前月（同▲7.1%）から2ヵ月ぶりの増加**に転じるなど、一進一退の動きが続いている。財別では、機械製品や化学製品、原材料関連の輸入は堅調な動きをみせる一方、価格下落を反映して原油や天然ガス、石炭などエネルギー関連の輸入には下押し圧力

がかかっている。この結果、貿易収支は+126.14 億 S G ドルとなり、前月（+128.86 億 S G ドル）から黒字幅が縮小した。

図 5 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以 上